

DNAで探る
 あなたのルーツ

特別展
古代DNA
 Ancient DNA: The Journey of the Japanese people
 —日本人のきた道—

2025 7.19(土)・9.23(火・祝)

名古屋市科学館 理工館地下2階 イベントホール
 MAGNA CITY SOKOJO 4F.50F.60F.
 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄2-17-1 豊橋と科学の杜・白川公園内
 TEL: 052-201-4450

開館時間 9時30分～17時 (入場は16時30分まで)
 休館日 毎週月曜日、7月22日(水)、9月22日(水)、3日(水)、16日(水)、19日(金)
 休止、7月21日(月)～22日、8月11日(月)～22日、9月15日(月)～22日は閉館。

主催：愛知県教育委員会、NHK名古屋放送局、NHKエンタープライズ 中継局社、中部新聞社
 特別協力：国立科学博物館 協賛：DNA大日本同好会
 後援：愛知県教育委員会、愛知県科学協会、愛知県子ども会連合協議会 協力：名古屋交通局

展覧会公式サイト
<https://ancientdna2025.jp>
 古代DNA 特展

放送100年

PRESS RELEASE

企画趣旨

遺跡から発掘された古代の人々の骨に残るごく僅かなDNAを解読し、
人類の足跡をたどる古代DNA研究。

近年では技術の発展とともに飛躍的な進化を遂げ、ホモ・サピエンスの歩んできた道のりが
従来想像されていたよりもはるかに複雑であったことが分かってきました。

本展では、日本各地の古人骨や考古資料、高精細の古人頭骨CG映像などによって、
最新の研究で見えてきた遥かなる日本人のきた道と、集団の歴史が語る未来へのメッセージを伝えます。

※東京会場とは一部展示が異なります

総合監修者 メッセージ



撮影者 | 中野昭次

今世紀になって急速に発展した古代ゲノム解析は、我々ホモ・サピエンスの起源とアフリカからの拡散の状況を明らかにしつつあります。

この解析技術によって、これまで人骨の形態から類推されてきた日本列島集団の成立史も、ゲノム解析で得られた精緻なデータによって補完されるようになっていきます。この学問の驚異的な発展は、検証が難しかった考古学や歴史学のデータと集団成立のシナリオの整合性の検討も可能にしました。列島内の文化が変わるとき、それを担った集団の遺伝的な特徴も変化したのでしょうか。今や列島集団の成立の研究は、新たな段階に入っているのです。

本展覧会では、4万年に及ぶ日本列島集団の成立のシナリオを、人骨とそこから得られた最新のゲノムデータ、そして最新の考古学研究の成果で解説します。

国立科学博物館長 篠田 謙一

21世紀の科学技術の進歩によって、考古学では縄文・弥生時代を中心に新たな時代像が描かれ始めています。

最新の年代測定によって遺跡や遺物に高精度な年代を得た考古学と人類学は共通の時間的尺度を得たと言えるでしょう。特に古代ゲノム解析で得られた精緻なデータは縄文人や古墳人の家族像を復元しました。水田稲作開始期の水田稲作民とアワ・キビ栽培民の関係を明らかにすることで、縄文から弥生への文化変容の実態に迫りつつあります。また、これまで先史考古学では個人の特定はできませんでしたが、究極の個人情報であるDNAがわかることで特定個人の存在を視覚化できるようになり、人の移動に伴う文化拡散の具体的なイメージを提示できつつあります。

本展覧会では新たな先史日本列島人と共に生きたイヌやネコたちも合わせてぜひご覧ください。

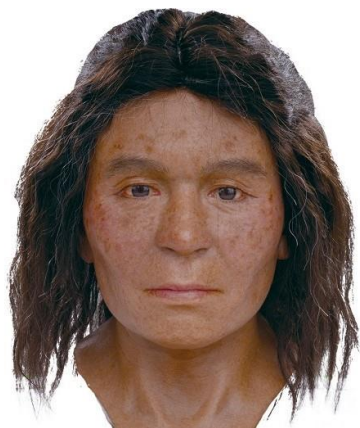


撮影者 | 中野昭次

国立歴史民俗博物館名誉教授 藤尾 慎一郎

1 今もなお現代に残る 縄文人のDNA

旧石器時代から古墳時代まで、
ゲノム解析の最新研究成果で古代人の謎に迫ります。



船泊遺跡 23 号人骨 復顔（DNA 情報に基づいて作成）
国立科学博物館

2 考古学 × 自然科学

祈り、なりわい、交流。
最新の考古学と DNA 研究で、
2 万 7000 年の時を超えて古代人の姿が見えてきます。



日本最古の土偶

住居址 D1-86 から出土した
最古段階の土偶
縄文草創期、1 万 3000 年前
滋賀県相谷熊原遺跡
滋賀県

3 国立科学博物館 × NHK の 8K 技術

国立科学博物館と NHK の 8K 技術を利用した
共同研究の成果を活かし、
超高精細 CG 映像を駆使して、
日本人のきた道をたどります。



発掘した古代人（船泊遺跡 23 号人骨）から制作した 3 DCG（左）
国立科学博物館
CG 制作のための撮影の様子（右）



4 ヒト × イヌ・イエネコ

古くから人類とかかわりが深いイヌやイエネコの
渡来の歴史や暮らしぶりにも迫ります。



古墳時代の
ネコ？の足跡



拡大図

動物足跡付須恵器
古墳終末期、6 世紀末～7 世紀初頭
兵庫県見野 6 号墳
姫路市教育委員会

章構成

第1章 | 最初の日本人—ゲノムから見た旧石器時代の人々

第2章 | 日本の基層集団—縄文時代の人と社会

第3章 | 日本人の源流—さまざまな弥生人とその社会

第4章 | 国家形成期の日本—古墳時代を生きた人々

トピック イヌのきた道

トピック イエネコの歴史

第5章 | 南の島の人々—琉球列島集団の形成史

第6章 | 北の大地の人々—縄文人がアイヌになるまで

監修者（敬称略）

総合監修

篠田 謙一 国立科学博物館長

藤尾 慎一郎 国立歴史民俗博物館名誉教授

監修

坂上 和弘 国立科学博物館生命史研究部人類史研究グループ長

神澤 秀明 国立科学博物館生命史研究部人類史研究グループ研究主幹

森田 航 国立科学博物館生命史研究部人類史研究グループ研究員

山田 康弘 東京都立大学大学院・人文科学研究科教授

清家 章 岡山大学大学院社会文化科学研究科・文学部教授

寺井 洋平 総合研究大学院大学統合進化科学研究センター准教授

松本 悠貴 アニコム先進医療研究所株式会社研究開発課研究員/麻布大学データサイエンスセンター特任准教授

木下 尚子 熊本大学名誉教授

青野 友哉 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授

坂本 稔 国立歴史民俗博物館研究部教授

最初の日本人ーゲノムから見た旧石器時代の人々

アフリカで誕生したホモ・サピエンスは 6 万年ほど前に世界展開を始め、およそ 4 万年前に日本列島に到達しました。この「最初の日本人」の実態は、化石証拠がないことから謎に包まれていましたが、近年沖縄県石垣島の遺跡からこの時代の人骨が続々と発見され、その一端が明らかになりつつあります。

国立科学博物館では、古代ゲノム解析でノーベル賞を受賞したスバンテ・ペーボ博士のグループと共同でこれらの人骨の研究を進めており、このコーナーではその成果を紹介します。



白保竿根田原洞穴遺跡 4 号人骨
旧石器時代
沖縄県白保竿根田原洞穴遺跡
沖縄県立埋蔵文化財センター

ゲノム解析が進む“最古の日本人”

2007 年に新石垣空港建設に伴って発見された白保竿根田原洞穴遺跡は 2016 年まで発掘が続き、数多くの旧石器時代人骨が発見されています。

特に 4 号人骨と呼ばれる全身骨格の揃った 2 万 7000 年前の人骨は、国内から発見された最も古い人骨の一つです。骨格から生前の姿が復元されており、ゲノム解析も可能だったことから、この人物の遺伝的な特徴も明らかになりました。

古代 DNA 研究とは？

1980 年代に人骨などの古代試料にもごく僅かな DNA が残っていることが明らかになりました。

その分析はミトコンドリア DNA の短い領域の解析から始まりましたが、2006 年以降には画期的な DNA 解析技術が開発され、今では現代人と同じレベルでの解析も可能になっています。その結果、我々ホモ・サピエンスの世界展開の状況や地域集団の形成過程についての研究も進んでいます。

この分野の研究を主導したスバンテ・ペーボ博士は、その業績によって 2022 年のノーベル生理学・医学賞を受賞しましたが、彼は沖縄科学技術大学院大学の教授も兼ねており、白保人骨の解析にも携わっています。

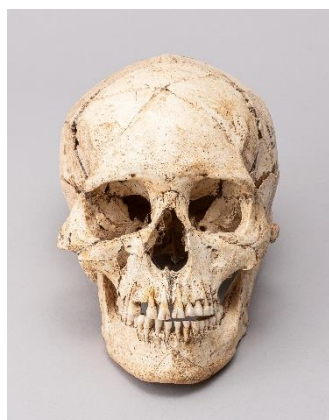


白保竿根田原洞穴遺跡 4 号人骨 復顔
国立科学博物館

日本の基層集団—縄文時代の人と社会

縄文時代は、日本列島域で土器が出現したおよそ 1 万 6000 年前から、九州北部で水田稲作が登場した 2900 年程前まで続きました。当時の人々は定住し、自然から食料を獲得する生活を基本としていましたが、一部の地域ではこのような暮らしが 2400 年前まで続いていました。縄文文化は時期や地域ごとに特色がありますが、近年、人骨に残された DNA を解析する技術が飛躍的に向上し、縄文人がどのような人々だったのか、わかってきました。

ここでは、縄文人と彼らの社会や精神文化についてご紹介したいと思います。



海岸部の縄文人
(里浜貝塚 98-1 号人骨)
縄文晩期、3200 年前
宮城県里浜貝塚
奥松島縄文村歴史資料館

海岸に住んでいた縄文人

縄文人は、山間部や海岸部、平野など周辺の環境に合わせて多様な生活をしていました。海岸に住む縄文人は、魚や貝類といった海産物を採るために、ヤスやモリなどの様々な道具を発達させていきました。ここでは、山地および海岸部の遺跡から出土した人骨の分析結果と出土した道具類を取り上げて、縄文人の暮らしぶりについて解説します。



バイオリン形土偶
縄文早期、1 万 1000 年前
千葉県小室上台遺跡
船橋市飛ノ台史跡公園博物館

すごく小さな女性の土偶

縄文時代のはじめころ、定住生活が進展するとともに精神文化も発達していきました。そうした中、祈りの道具として登場してきたのが土偶です。最古段階の土偶は小型で、顔や手足の表現はありませんが、一对の乳房とくびれた腰が表現されており、当初から女性像として作られたことがわかります。おそらくは女性のみが持つ、生命を産み出す力が祈りのモチーフとされたのでしょう。



クマ形土製品
縄文晩期、2400 年前
岩手県上杉沢遺跡
二戸市埋蔵文化財センター
※展示は複製品（国立歴史民俗博物館蔵）

縄文時代のクマ??

縄文人は、狩りの成功や大地の豊穡を祈るなどのために、イノシシやサル、時にはシャチやイカ、アワビ、クルマミといったものまで、数多くの動植物をかたどった小型の土製品を作っています。中でもクマは、危険な狩猟対象でもある一方で、その危険性や力強さから特別な動物としてもあがめられていたようで、東北地方の遺跡からはクマ形の土製品がしばしば出土します。

日本人の源流—さまざまな弥生人とその社会

水田稲作が始まった弥生時代は、縄文人とは見た目はもちろん、DNAや考え方が異なる、青銅や石の武器を持つ朝鮮半島青銅器文化人の登場によって幕を開けました。それから 600 年後の九州北部に現れる甕^{かめ}棺墓^{かんぼ}から見つかる人骨は、ほぼ渡来系の DNA をもつ人びとと予想されています。さらにその後の 400 年あまりで現代日本人の DNA がほぼ出そろったことも明らかになっています。1000 年あまりで縄文人の DNA と入れ替わった弥生人の DNA 物語をご覧ください。



青谷上寺地遺跡 8 号人骨（男性）
弥生後期、2 世紀
鳥取県青谷上寺地遺跡
鳥取県立青谷かみじち史跡公園



青谷上寺地遺跡 8 号人骨
復顔（青谷上寺朗）
鳥取県立青谷かみじち史跡公園

DNA 分析で分かった弥生人の姿

国内最古の脳が発見された鳥取県青谷上寺地遺跡の男性の頭蓋骨や DNA を元に制作された、およそ 1800 年前の弥生人男性の復顔像です。DNA 分析によって、縄文人とは遺伝的特徴が異なり、現代日本人と遺伝的に近いことが明らかとなりました。また、髪の毛が太くて黒々としていたことも判明しました。



水田稲作民の道具類：
稲穂脱穀用の壺杵
土偶（左から）石棒・人形土製品
いずれも弥生前期、紀元前 6 ～ 前 5 世紀
愛知県松戸遺跡
春日井市教育委員会

狩猟採集民由来の土器とまつりの道具

愛知県の遺跡のなかには、水田稲作民の土器である遠賀川系土器と狩猟採集民の土器である条痕文系土器がともに出土する遺跡があります。水田稲作に用いた木製農具や大陸系の石製工具が出土する一方で、狩猟採集民が伝統的に使っていた土偶や石棒などの縄文系のまつりの道具と、土偶が弥生風^{ひとがた}に変容した人形土製品も出土しています。この地の狩猟採集民が水田稲作を始めた証拠の一つです。

渡来人と交流

当時、朝鮮半島南部で使われていた調理用の甕^{かめ}と形や焼きがそっくりな土器。表面からは見えないところに朝鮮半島の土器づくり技術が使われていることから、朝鮮半島出身者やその関係者が作った可能性があります。九州北部で水田稲作が始まってから約 250 年後の福岡平野に渡来人やその子孫が暮らしていた可能性を示す数少ない資料の一つです。



現状でもっとも古い渡来系弥生人が使った朝鮮半島系の甕
弥生前期、紀元前 7 ～ 前 5 世紀
福岡県比恵遺跡
福岡市埋蔵文化財センター

国家形成期の日本—古墳時代を生きた人々

古墳時代に入るとヤマト政権が誕生し、国家成立へ向けて社会が動き出します。弥生時代だけではなく、この時代になっても継続的に渡来人はやってきました。そうした人々が、須恵器生産・鉄器生産・馬の飼育などの新たな技術を伝え、日本列島における国づくりを支えました。

これまで解析された多くの古墳時代人のゲノムは現代日本人に近いことが分かっていますが、その一方で縄文系のDNAを色濃く残す人々もいました。一口に古墳時代人と言っても多様なDNAを持つ人々の集合だったのです。



茶山2号墳馬形埴輪
古墳中期、5世紀
大阪府茶山2号墳
羽曳野市教育委員会

大阪以外では初展示の埴輪

大阪府古市古墳群で最大の規模をほこる^{こんだごびょうやま}誉田御廟山古墳（応神天皇陵古墳）の東側に位置する茶山2号墳から出土した馬形埴輪です。5世後半の資料で、5世紀に日本列島に馬が導入され、ヤマト政権内でも馬が使用されていたことを示します。大阪以外では初の展示です。



磯間岩陰遺跡
第1号石室1号人骨（中年男性）
古墳中期、5世紀
和歌山県磯間岩陰遺跡
田辺市教育委員会

古墳時代にも残る縄文のDNA

弥生時代以来、渡来人との混血が進み、多くの古墳時代人は現代日本人に近いDNAを有しています。しかし、縄文系DNAを色濃く残す人骨もあります。^{いそまいわかげ}磯間岩陰遺跡（和歌山県田辺市）第1号石室1号人骨もその一つです。古墳時代人は多様なDNAを持つ人々から構成されていたことを示す資料です。



久米三成4号墳
第1主体第1号人骨（熟年男性）
古墳前期、4世紀
岡山県久米三成4号墳
岡山理科大学

古代DNAが語る古墳時代の親族関係

DNA分析の進展は、古代親族の復元を可能にしました。岡山県久米三成^{くめさんなり}4号墳から見つかった4体の人骨を分析したところ、うち3体が血縁者であり、父親と二人の娘であることが判明しました。二人の娘は異母姉妹であることも判明し、古墳時代で初めて確認された異母キョウダイの例となりました。

イヌのきた道

日本列島には1万年程度前の縄文時代に現在のところ最古のイヌの系統が渡来し、7000年間他のイヌと混ざることなく、この古い系統が維持されてきました。弥生時代以降のヒトの移動とともに縄文時代のイヌとは異なる系統のイヌが日本列島に渡来し、在来イヌと混ざってきました。このようなイヌの移動と混血の歴史をDNAから解き明かしていきます。本章で展示する骨のほとんどはDNA解析をしています。

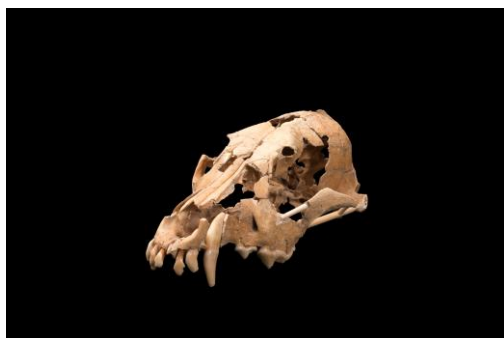


ニホンオオカミの頭骨

江戸～明治時代
神奈川県清川村
個人蔵

DNAで挑むニホンオオカミの謎

5年ほど前までイヌに最も近いオオカミは不明で、絶滅したオオカミ集団だと考えられていました。しかし、最近のニホンオオカミの高深度古代ゲノム研究から、ニホンオオカミがイヌに最も近縁であることが明らかになっています。また、他のオオカミとの混合の歴史のない単一起源のニホンオオカミが日本列島に渡来し、その後大陸で祖先が絶滅した後も、100年ほど前まで日本列島に隔離され生き残ってきたことが明らかになりました。



縄文時代のイヌの頭骨

縄文早期、7400～7200年前
愛媛県上黒岩岩陰遺跡
慶應義塾大学

縄文時代のイヌ

縄文時代のイヌの特徴は、渡来した1万年ほど前から3000年ほど前まで形態が変わらなかったことがあげられます。そのため縄文時代のイヌは古い系統であり、7000年間日本列島に隔離されてきたと考えられていました。実際に縄文犬の古代DNAから、縄文時代のイヌは狩猟採集生活に適した、イヌの最も古い系統であり、イヌの起源を知るための手がかりとなります。



弥生時代のイヌの頭骨

弥生後期～古墳前期初頭
鳥取県青谷上寺地遺跡
鳥取県立青谷かみじち史跡公園

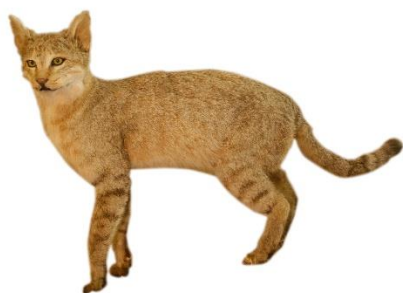
弥生時代のイヌ

弥生時代になると、稲作文化を伴ったヒトが日本列島に渡してきました。この渡来系弥生人は、稲作文化の中で生きること適したイヌを伴っていました。そして稲作の広がりとともに、農耕文化の中で生きるイヌが急速に在来縄文犬に混ざりながら広がっていったことが古代DNAから明らかにされています。ヒトの文化の変遷がイヌのゲノムの変遷に直接つながっています。

イエネコの歴史

イエネコはイヌとならび古くから人と関わりが深い動物であり、世界中でイエネコに関する多数の歴史資料が見つかっています。

日本には、稲作の伝来が始まった弥生時代に持ち込まれたという説がありますが、近年のDNAを用いた分析では、現代に生きる日本猫の多くは、より最近の平安時代前後に持ち込まれたネコを祖先とすることが分かってきました。本展示では、イエネコがいつ日本に持ち込まれ、日本人とどのように暮らしてきたかを最新のDNA研究から迫ります。



リビアヤマネコの剥製
ねこの博物館

イエネコの起源

約1万年前、中東のリビアヤマネコを家畜化したことでイエネコが誕生し、その後、イエネコは人類の交易によって世界中に広がっていきました。9500年前の遺跡からは、人骨のそばに埋葬されていたネコの骨が見つかっています。また、約4000年前の遺跡からはネコのミイラや絵画が見つかっており、当時の人々とネコの関係の深さをうかがわせます。

イエネコの骨か？

弥生時代の長崎県壱岐市のカラカミ遺跡で見つかったイエネコとされる骨は、従来の説であった奈良・古墳時代の日本への渡来という説を覆す成果となりました。しかし、イエネコは近縁な小型のネコ科動物であるツシマヤマネコなどと形態的な違いが小さいため、見つかった骨がイエネコのものかどうかを確かめるためには、古代DNAの分析が必要になります。



ネコ科の骨
弥生中期、紀元前2世紀
長崎県カラカミ遺跡
壱岐市教育委員会

古墳時代のネコ？の足跡

古墳時代の後期にあたる兵庫県姫路市の見野6号墳で出土した須恵器には、動物の足跡が残されていました。この足跡の肉球の位置や形、爪の跡を詳細に分析したところ、イヌやタヌキなどの他の動物ではなく、イエネコの特徴を示す足跡であったため、この足跡はイエネコのものではないかと考えられています。



動物足跡付須恵器
古墳終末期、6世紀末～7世紀初頭
兵庫県見野6号墳
姫路市教育委員会

南の島の人々―琉球列島集団の形成史

日本列島の南をつなぐ琉球列島は、歴史的に南島と呼ばれています。南島の自然は、亜熱帯と黒潮とサンゴ礁で特徴づけられ、新石器時代にはその幸を活かした南島型の縄文文化が花開きました。弥生時代になると福岡平野の弥生人が南島特産の大型巻貝を使った腕輪を作り始め、貝殻の入手のために九州・沖縄間に長大な海上交易路が生まれ、古墳時代に続きます。1000 年にわたる海上往来は人々の DNA に何をもたらしたのでしょうか？ 展示をお楽しみに。



面縄第 1 貝塚 1 号人骨（弥生早期併行期の南島人）
弥生早期併行、紀元前 9 世紀
鹿児島県面縄第 1 貝塚
伊仙町教育委員会



イモガイ集積とシャコガイ
弥生中期併行
沖縄県木綿原遺跡
世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム



ゴホウラ現生貝（最左）とゴホウラ腕輪の粗加工品
古墳中期～後期併行
鹿児島県西原海岸遺跡
個人蔵

ゲノムから見た琉球列島の人々

写真は 2800 年前の弥生早期併行に鹿児島県の徳之島で暮らしていた女性の骨です。

姿かたちは同時代の本土の弥生人よりも縄文人と似ており、ゲノムも縄文人とほぼ同じでした。縄文時代に琉球列島に到達した集団は渡来人の影響を受けなかった可能性が示唆されていますが、弥生時代から中世に至る間に本土の渡来系集団の影響を受けて、ゲノムに変化が生じたことが分かっています。

準備された交易品

写真左側の 7 個の貝は 2000 年前の沖縄で準備されていた輸出用のイモガイで、一箇所までまとまってみつかりました。傍らのシャコガイは大事な交易品を守る呪具でした。北部九州の弥生人は琉球列島の大型巻貝－ゴホウラとイモガイで作った腕輪を好んで使い、この貝殻を入手するために沖縄諸島まで行き交易をしていたのです。

交易の忘れ物

写真の右 2 点の貝は、沖永良部島でみつかったゴホウラです。これらは 5～6 世紀の沖縄で獲られて加工され、九州の豪族に届けられる予定の交易品だったのでしょうか。九州の古墳人は、これをはめる人物の腕の大きさに合わせて腕輪を完成させたはずですが。丁寧な加工の様子をもとの貝殻(写真左の現生貝)と比べてみてください。

北の大地の人々—縄文人がアイヌになるまで

日本列島の北部の文化は約 2400 年前に稲作農耕を行わない「続縄文文化」が誕生したことを契機に本州島以南とは異なる文化的変遷をたどり「アイヌ文化」に至っています。

人の成り立ちにおいては、縄文時代から 19 世紀半ばまで南北双方からわずかながら遺伝的交流があるものの、縄文人の形質・遺伝子を色濃く引き継いでいるのです。

本章では、発掘された出土品から日本列島における人と文化の多様性を感じていただきます。



(左)鹿角製匙型製品（複製）

縄文前期、6000 年前 北海道北黄金貝塚 伊達市教育委員会

(右)鯨骨製匙型製品

縄文前期、6000 年前 北海道北黄金貝塚 伊達市教育委員会

画像提供：北海道伊達市教育委員会（撮影：佐藤雅彦）

縄文前期の匙型製品（約 6000 年前）

北黄金貝塚の匙型製品は左右に 2 個一対の突起と中央にスリットがあり、同様の特徴が続縄文期（約 2000 年前）の有珠モシリ遺跡出土の熊彫刻の匙型製品に見られます。祭祀道具は伝世する期間が長く、新たに作られる場合も忠実に模倣されるため形態の変化が遅いのです。

続縄文文化の祭祀道具

墓址の底から出土した一連の玉類は、カズラガイ、クマの末節骨、孔の穿いた石、転用されたハクチョウ製の針入れ、コアホウドリ製の垂飾からなり、海・山・川・空の自然界全体を表しています。同時期の琥珀玉や碧玉製管玉が単一素材で用いられるのとは対照的であることから「呪具」の可能性もあります。



墓址から出土した玉類と貝輪

続縄文前半期、2000 年前

北海道有珠モシリ遺跡

東北芸術工科大学保管

男性アイヌの副葬品

17 世紀のアイヌの副葬品は男女により違いがありました。鉄鍋や針と針入れ、鉈は女性の持ち物、エムシ（太刀）や矢と矢筒は男性の持ち物でした。刀は争いの道具ではありますが、アイヌにとっては壁に飾られる「イコロ（宝）」であることが、銀覆輪の柄の裏側が極端に粗雑な点から読み取れます。



エムシ(太刀)

17 世紀

北海道有珠 4 遺跡

伊達市教育委員会

音声ガイド

ナビゲーターを務めるのは、多方面で活躍中のタレント・井上咲楽さん。
ナレーターの斉藤茂一さんと共に最新の古代DNA研究で古代人の謎に迫ります。



音声ガイドナビゲーター

井上 咲楽さん（タレント）

1999年10月2日生まれ。栃木県出身。
趣味は選挙演説巡り、マラソン、トレイルランニング、
発酵食品など。
NHK「サイエンス ZERO」、ABCテレビ「新婚さんいらっしゃい！」など多数の番組にレギュラー出演中。

【会場レンタル版】貸出料金 **650** 円

【アプリ配信版「iMuT いつでもミュージアム・トーク」】配信料金 **800** 円

グッズ

会場内特設ショップでは、公式図録やオリジナルグッズもたくさん取り揃えています。

人気イラストレーター・Noritake とのコラボグッズも登場します！お楽しみに！



Ancient DNA

© Noritake

Noritake

広告、書籍、ファッション、プロダクト制作など国内外で活動するイラストレーター。近著に『WORKS』（グラフィック社）、『へいわとせんそう』（谷川俊太郎・文／ブロンズ新社）などがある。

www.noritake.org



開催概要

名称	特別展「古代DNA—日本人のきた道—」 Special Exhibition: Ancient DNA: The Journey of the Japanese People
会期	2025年7月19日（土）～9月23日（火・祝）
会場	名古屋市科学館 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄二丁目17番1号 芸術と科学の杜・白川公園内 TEL: 052-201-4486
開館時間	9時～17時（入場は16時30分まで）
休館日	毎週月曜日、7月22日（火）、9月2日（火）、9月3日（水）、9月16日（火）、9月19日（金）。 ただし、7月21日（月・祝）、8月11日（月・祝）、9月15日（月・祝）は開館。
入場料（税込）	●当日券 一般 1,800 円、高大生 1,000 円、小中生 500 円 （前売券は各 200 円引き） ●企画チケット（前売のみ、数量限定販売。会期中有効） 親子チケット（一般、小中生の計2名分を1枚で発券。入場は親子同時でお願いします） 1,700 円 ペアチケット・一般（一般2枚で発券。2名が別々に、または1名で2度ご入場も可能です） 3,000 円 ペアチケット・高大生（高大生2枚で発券。2名が別々に、または1名で2度ご入場も可能です） 1,400 円 ※上記料金でプラネタリウムを除く名古屋市科学館展示室をご覧ください。 ※未就学児は入場無料。 ※高大生は要学生証。 ※障害者手帳などご持参の方は当日料金の半額（要証明書／ご本人と、介護者2名まで適用） ※30名以上の団体は、当日料金より100円引き。 ※名古屋市交通局発行の乗車券のうち、「一日乗車券」「ドニチエコきっぷ」「地下鉄全線24時間券」を来館 当日に利用された方は、当日料金より100円引き。 ※各種割引の併用はできません。
主催	名古屋市科学館、NHK名古屋放送局、NHKエンタープライズ中部、中日新聞社
特別協力	国立科学博物館
協賛	DNP 大日本印刷
後援	愛知県教育委員会、愛知県私学協会、愛知県子ども会連絡協議会
協力	名古屋市交通局
公式サイト	https://ancientdna2025.jp

報道関係のお問合せ

特別展「古代DNA—日本人のきた道—」実行委員会事務局
〒460-8511 愛知県名古屋市中区三の丸1-6-1
中日新聞社文化事業部
原山、岡村
Tel | 052-221-0729 Fax | 052-221-0739
Mail | harayama.h@chunichi.co.jp

広報用画像

広報用画像をご希望の場合は、画像番号をご連絡ください。番号のご指示がない場合、01～05番の画像をお送りします

01  メインビジュアル（縦、横） ※クレジット不要	02  船泊遺跡 23号人骨 復顔（DNA情報に 基づいて作成） 国立科学博物館	03  住居址D1-86から出土した 最古段階の土偶 縄文章創期、1万3000年前 滋賀県相谷熊原遺跡 滋賀県	04  動物足跡付須恵器 古墳終末期、6世紀末～7 世紀初頭 兵庫県見野6号墳 姫路市教育委員会	05  白保竿根田原洞穴遺跡 4号人骨 旧石器時代 沖縄県白保竿根田原洞穴遺跡 沖縄県立埋蔵文化財センター
06  白保竿根田原洞穴遺跡 4号 人骨 復顔 国立科学博物館	07  海岸部の縄文人 （里浜貝塚 98-1号人骨） 縄文晩期、3200年前 宮城県里浜貝塚 奥松島縄文村歴史資料館	08  クマ形土製品 縄文晩期、2400年前 岩手県上杉沢遺跡 二戸市埋蔵文化財センター *展示は複製品（国立歴史民俗博物館蔵）		
09  青谷上寺地遺跡 8号人骨（男性） 弥生後期、2世紀 鳥取県青谷上寺地遺跡 鳥取県立青谷かみじち史跡公園	10  青谷上寺地遺跡 8号人骨 復顔（青谷上寺朗） 鳥取県立青谷かみじち 史跡公園	11  現状でもっとも古い渡来系弥 生人が使った朝鮮半島系の甕 弥生前期 紀元前7～前5世紀 福岡県比恵遺跡 福岡市埋蔵文化財センター	12  茶山2号墳馬形埴輪 古墳中期、5世紀 大阪府茶山2号墳 羽曳野市教育委員会	13  久米三成4号墳第1主体第1号 人骨（熟年男性） 古墳前期、4世紀 岡山県久米三成4号墳 岡山理科大学
14  ニホンオオカミの頭骨 江戸～明治時代 神奈川県清川村 個人蔵	15  縄文時代のイヌの頭骨 縄文早期、7400～7200 年前 愛媛県上黒岩岩陰遺跡 慶應義塾大学	16  イモガイ集積とシャコガイ 弥生中期併行 沖縄県木綿原遺跡 世界遺産座喜味城跡ユンタンザミ ュージアム	17  エムシ（太刀） 17世紀 北海道有珠4遺跡 伊達市教育委員会	

遺跡から発掘された古人骨に残る僅かな DNA を解読し人類の足跡をたどります。イヌやイエネコの歴史にも迫ります。(52 文字)

遺跡から発掘された古人骨に残る僅かな DNA を解読、人類の足跡をたどる古代 DNA 研究。縄文から古墳時代までの人々の DNA を分析、復顔像や考古資料を展示し、日本人のきた道と集団の歴史が語る未来へのメッセージを伝えます。イヌやイエネコの渡来の歴史にも迫ります。(121 文字)

日本各地の遺跡から発掘された古代の人々の骨に残る僅かな DNA を解読、人類の足跡をたどる古代 DNA 研究。縄文、弥生、古墳時代とそれぞれの時代を生きた人々の骨を DNA 解析。本展では復顔像や考古資料とともに、超高精細 CG 映像を駆使して古代 DNA 研究の成果をわかりやすく紹介し、日本人のきた道と、集団の歴史が語る未来へのメッセージを伝えます。さらに、人とともに生活をしてきたイヌやイエネコの渡来の歴史や暮らしぶりにも迫ります。(200 文字)